



えいのまる

ゴールデンウィーク明け えいのまる

令和5年度がスタートして1カ月がたちました。1年生76名が入学して477名の児童数となっています。今年から、悲願の特別支援学級（自閉・情緒学級）が新設されました。今後、子どもたちの個別のニーズに合わせた相談等できていくように努めていけたらと考えています。

5月末27日土曜日には、久しぶりの一斉の学習参観+親子清掃（PTA主催）も行います。親同士、教師と親、親子が働きながらつながる機会になればと考えています。

◎今年1年間の方針

昨年度は、「自ら考え、自ら行動する」ことを目標設定して1年間取り組みました。様々な行事改革を行い、子どもは考え悩み、トライ&エラーを通して、**主体性**という成長を遂げることができました。

今年度は、「自ら考え、**みんなでやりとげる**」と、行動だけでなく、「**みんなでやりとげる**」という**集団の目標**にまで高めています。その結果、「ALLスマイル&ハッピー」になると考えています。

◎コロナ2類→5類で変わること 5/8～

政府はマスクなど一律に基本的感染対策を求めることがなくなりました。一方、学校では次のようになります。

①感染したら？

- ・発症した翌日から5日を経過し、かつ症状が軽快した後1日を経過するまでを出席停止期間とします。
- ・発症した翌日から10日間が経過するまでは、不織布マスク着用やハイリスク者との接触は避ける等配慮の協力を求めます。

②濃厚接触者になったら？

- ・登校可能です。
- しかし、同居者が感染したら、感染日の翌日から7日目までは発症する可能性があり、不織布マスクの着用のご協力を求めます。休ませる場合の欠席の扱いはご相談ください。 ※以上、学校保健安全法施行規則による

③給食や学習の制限は？

- ・机を向い合いにしての会話が可能。（2m距離確保）
- ・体育館や教室の人数制限がなくなります。27日の学習参観の人数制限や教室の出入りも制限が解除されます。
- ・換気や手洗いは推奨していきます。

④インフルエンザの制限は？

- ・発症の翌日から5日を経過し、かつ解熱した後2日とされています。（解熱後が1日長い）
- ※いずれにせよ医師の判断を仰いでください。

⑤学校行事等はもとに戻るのか？

- ・アフターコロナを見通して進めてきた行事改革をさらに進めます。さらにVUCA（予測困難）の時代を生き抜く子どもたちの未来に必要な力を育成するために、新たな取組を進めます。（例：ホンモノとの出会い、協働で子育て等の取組）

◎ホンモノの芸術と出会い

北九州市の学校応援資金基金に応募したアイデアが選定され、他の学校にはない学校内にホンモノの芸術品展示が実現します。

「行動大分」の芸術家グループの協力を得て、6月中旬から12月中旬まで、途中作品入れ替えを経て、2期にわたり、巨大な絵画や彫刻が北棟1階に展示されます。また、作品を作った芸術家の方々と子どもたちの対話も企画します。



子育て応援 シリーズ

～校長の独り言～

ご褒美で子育ての効果をデータから見る

中室牧子著「学力の経済学」Discoverより

「100点取ったら100円ね」「毎日風呂洗いでお小遣いアップ」「かけっこ一番で焼き肉」etc..いろいろなご褒美作戦で子どものやる気を出させて、頑張らせている家庭は多いと思います。

一方で、「ご褒美で子どもを釣らなければ勉強させられないなんて親として失格なのでは？」という考え方もあるかと思っています。また、誰しも「ご褒美で釣るだけでは後々続かないのではないか」と心配してしまいます。

そこで教育経済学者である慶應義塾大学准教授中室氏は、「学力の経済学」という著書で経済学の立場からデータをを用いて解析していました。紹介させていただきます。

◎「目の前のにんじん」作戦を経済学的にひもとく

「今ちゃんと勉強するのがあなたの将来のためよ」

この言葉を誰もが子どもに対して使ったことがあると思います。実際、幼少期から勉強した児童の年収は高いというデータが示されています。しかし、「あなたのためよ」と言っても勉強しないのは世の常識。なぜでしょうか？

実は人間は、目先のことだと、すぐ実行したくなるが、遠い先の話では実行は難しい生き物なのです。

例えば、半年後5000円のお年玉がもらえると分かっている子に、「1週間もらうタイミングを遅らせればお年玉は5500円になるよ」と伝え、子どもは1週間我慢して多くもらおうとします。

しかし、明日の誕生日に5000円の小遣いがもらえるが、1週間延期すると5500円になると言われても、少なくとも明日の5000円を選んでしまうそうです。

うらにつづく

つまり、遠い将来を考えると勉強した方が良いと分かっている、今は勉強よりゲームの方が大切で、「勉強するのは明日からでよいや」となってしまう。

だから、「自分のために勉強しなさい」と言うより、目の前にご褒美をぶら下げて、「勉強したら〇〇ね」と言った方が勉強するというわけです。

もちろんそれでよいのかという疑問は沸きますが、まずはデータの整合性も納得できると思います。では、どんなご褒美の与え方が勉強するには効果的なのでしょう。

◎「テストでよい点とればご褒美」と「本を読んだらご褒美」～どちらが効果的か？～

これは、ハーバード大学フライヤー教授が、ご褒美と出席や学力の因果関係を250校、約3万6千人の子どもの対象に検証したそうです。次のアウトプットとインプットのご褒美の与え方の違いがわかりますか？

- ①「アウトプット」→学カテストや通知表の成績がよいなど結果にご褒美を与える
- ②「インプット」→本を読む、宿題を終える、学校に出席する、制服を着るなど過程にご褒美を与える

さて、実際の学カテストが良くなったのは、「インプット」にご褒美を与えられた子どもたちでした。特に、本を読むことにご褒美を与えられた子どもの学力上昇は顕著だったそうです。

本著では、この効果の違いの理由も解説しています。インプットは短期間ですべきことが明確ですが、アウトプットは何をすべきか、具体的な方法は示されません。

ご褒美は欲しいし、やる気もあるのに、どうすれば成績が良くなるかわからないからやらないということです。

ですからインプットのご褒美で成績アップということになりますが、アウトプットで成績アップにつなげるためには、成績を上げる方法を教え、導くことが欠かせないということがわかります。

◎ご褒美は子どもの「勉強する楽しさ」を失わせるのか

ここまでくると、ご褒美はやり方次第で結果に結びつくということはわかりましたが、果たしてご褒美を使ってやる気を引き出してよいのかという心配をもちます。

「ご褒美」のことを教育経済学では「外的インセンティブ」と言うそうです。親や教育者は、ご褒美で短期的に子どもを勉強に向かわせるような外的インセンティブでなく、「学ぶのが楽しい」という、知的好奇心を掻き立ててやる気を起こす「内的インセンティブ」を目指していると思います。

実際に、献血活動にお金を支払ったり、募金額によって報酬を与える募金活動を行ったりした時に、献血量や募金額が減ってしまったという実例はあるそうです。欲だけでは長続きしないということでしょう。

しかし、その他多くの場合、フライヤー教授の検証では、統計的に外的インセンティブも、内的インセンティブによる有意差が見られなかったことが証明されています。つまりご褒美は効果があり、勉強する楽しさも失わせないことが多かったというデータが示されています。

教育者である私には、意外な結果でしたが、ご褒美で教育効果が上がっただけではなく、ご褒美で勉強するようになった子どもが、その結果として、みんなから褒められたり、成績が上がったり、家族と一緒に過ごす楽しさを味わったりするなど、自ら勉強する良さを味わい、さらに勉強してますます結果がよくなったということもあると思いました。

私が勧めるのは、①上手にご褒美を使って嫌いな勉強に取り組ませること。②小学校のうちにはぜひ家族と一緒に外へ出て自然との触れ合いを深めたり、一緒に本を読んだり、考えを言い合ったり、星を眺めてきれいなねーと感動したりするなど、内的インセンティブを高めてほしい。そう思います。VUCA（予測困難な）の時代は、心豊かな子どもが最も必要とされていると感じますので。

